

巨木ブナ（鬼ぶな）及びその周辺の森林資源の保全と活用

いいやまブナの森倶楽部

渡辺隆一・井田秀行・木村 宏・高野賢一・玉置健二

I. 活動地概要

なべくら高原は長野県の飯山市に位置する500～1,300 m a.s.l.の里山で、自然と共に歴史も息づく地域である。冬は4 mを超える積雪に見舞われる世界屈指の豪雪地でもある。これまで、森太郎、森姫という巨木ブナが多くの登山者や観光客をひきつけてきた。

2011年には、森姫が枯死した。その原因の一つが登山者による根回りの踏み固めではないかと推察されている。今後そうした事態にならないように、我々は、巨木ブナを樹勢豊かなうちから保護し、活用すべく、意見交換・調査を行ってきた。また、地元の子供達に地域の自然を知ってもらおうべく、数年前からなべくら高原内を案内する活動を行ってきた。

II. 目的

この地域ではブナ林に既に人の入り込みが確認されている、無秩序な利用が続き、樹勢が衰退してしまう前に立ち入りを規制し、人為的な衰弱を防ごうと考えている。周辺に広がる森林を巡る歩道を開設し、なべくら高原内の既存の歩道と組み合わせればレベル別に紹介することが出来ると考えた。歩道の利用に際してはガイドツアーを推奨し、環境保全の啓発活動につなげることにした。

III. 活動の内容

樹木医の指導により、巨木ブナの根回り保護のための柵を設置した。踏み固めによる根の呼吸困難及び外傷による菌類の混入を防ぐものである。柵（玉縄）及び啓発看板設置は毎春行う予定である。

一部古道を利用しながら、新たな歩道を整備した（図1）。灌木を伐採し、下草の刈り払い、傾斜地を切土して歩道を造成した。刈り払いの目安は「葉が体を撫でる程度」である。進入禁止箇所は倒木、伐採木を設置した。

普及啓発活動として、地元小学生を対象としたガイドツアーを実施した。また、看板設置をし、そこには、森林環境、古道の歴史的な背景といった利用者へのガイド的な内容と保護、立ち入り規制の理由等を盛り込む。

リーフレットの作成も行った。不用意な入山の規制、利用者の集中を避けるような内容とした。さらにガイド同行の推奨を記載した。

IV. 活動の結果

全長約1.5 km（内約400 mは古道を利用）の歩道を整備した。歩道の調査、整備含めて延べ89名のボランティアが参加した。10月には地元の小学生及び関係者も参加したガイドツアーを開催した。以下のような意見が聞かれた。

「短いコースだが、見どころも多いコース」(ガイド), 「今後も鬼ぶなの状態観察が必須」(ガイド), 「急傾斜の箇所がある. 今後も整備が必要」(教育者), 「辛すぎない歩道で楽しかった!」(地元の小学4年生). また, リーフレット, 看板といった啓発活動に必要な制作物も完成した.

V. 今後の活動

春と秋の啓発看板, 梯子の設置と撤去及び鬼ぶな周辺のロープ張りが, 今後の定期整備として必要である. また, 倒木処理等, 歩道の維持管理を行う. もちろん, 鬼ぶな周辺の植生変化に関して定点観測を行う.

地元の子供達を対象とした森林散策を行うなど, 地域資源の理解の場としての活用を今後も継続して行う予定である.



図1 ボランティアを募って歩道整備を行った. 草刈り機その他, チェーンソーを使用. 刈った草や枝は熊手, フォーク, 人手で歩道脇へ寄せた

Kyobokubuna (Oni-buna) oyobi Sono Shuuhenn no Shinrinshigen no Hozen to Katsuyou

WATANABE Ryuichi, IDA Hideyuki, KIMURA Hiroshi,
TAKANO Ken-ichi and TAMAOKI Kenji